
会員増強や地域支え合いなど、諸課題について研究討議

～中四国ブロック老人クラブリーダー研修会が開催されました～

7月9日から2日間にわたり、戦後70周年を迎え、核兵器廃絶と世界恒久平和を決意をあらたに発信する広島市において、本年度の中四国ブロック老人クラブリーダー研修会が行われ、会場となったグランドプリンスホテル広島には、中四国ブロックの各県の老人クラブリーダーら約370名が参加しました（本県22名参加）。



挨拶に続き、全老連による基調報告が行われ、谷野参事から社会情勢を踏まえ、会員増強を図るとともに、全老連で示された新地域支援事業に向けての老人クラブの行動提案を参考に、地域で高齢者の在宅生活を支えて欲しいと基調報告がありました。

続いて行われた分科会は、「会員増強運動の推進」等、3つのテーマに分かれ、各県からの先進的な事例発表とテーマに基づく参加者による研究討議が行われました。本県からは、第2分科会「地域支え合い活動の推進」において、「安心して・安全に暮らせる町の実現に向けて」と題して、石井町老連の坂本貞一副会長が発表、石井町における交通安全、子どもの見守り活動の取り組みについて話されました。

二日目、「『あい』を支える『攻守交代』」と題して、広島文教大学の菅井直也（すがいなおや）教授によるユーモアを交えた記念講演が行われました。

その後、前日に行われた各分科会における討議の概要報告、質疑応答などを行い、最後に次期開催県である香川県老連会長の挨拶で全日程を終了しました。

